平成 28 年度　第 2 回　黒部市観光振興計画策定委員会

日　時　　平成 28 年 11 月 8 日（火）　13：30～
場　所　　黒部市役所 2 階　201 会議室
出席者
（委　員）
渡辺 康洋　　桜美林大学　教授
川端 康夫　　（一社）黒部･宇奈月温泉観光局　代表理事　代理　事務局長　坂井英次
濱田 政利　　宇奈月温泉旅館協同組合　理事長
藤田 義弘　　黒部峡谷鉄道株式会社　営業部長
島　 武夫　　黒部商工会議所　専務理事
米田 広志　　ＹＫＫ株式会社　黒部事業所長　室長
米屋 清美　　黒部観光ガイド　会長
中島 昭彦　　宇奈月 100 年会　代表理事
飯塚 龍志　　黒部まちづくり協議会　副会長
勝田 見一　　公募
原　 恵美　　公募
中谷 明博　　富山県観光･地域振興局地域振興課　課長
砂原 賢司　　富山県観光･地域振興局観光課　課長　代理　荻浦主幹
飯澤 宗晴　　黒部市産業経済部　部長
（欠　席）
中島 昭彦　　宇奈月 100 年会　代表理事
中尾 晃司　　公募

（事務局）　　黒部市産業経済部商工観光課
（コンサルタント）　株式会社ラックス

議　事

1. 開会
2. 委員長挨拶
3. 報告事項
   (1) 前回提案部分（第 1 章から第 2 章まで）の修正について
   (2) アンケート調査結果
   (3) 委員からの提案事項等
4. 協議事項
   (1) 黒部市観光推進計画（案）について
   ①施策の体系（個別施策）について
   ②基本目標（将来像及び数値目標）について
   ③第 4 章「重点プロジェクト」について
   ④第 5 章「推進体制」について
5. その他
   (1) 今後のスケジュールについて
6. 閉会

資　料

資料 1.「黒部市観光振興計画」（素案）
資料 2.「黒部市観光振興計画体系図」（案）
資料 3. 今後のスケジュールについて
参考資料 1.「黒部市の観光に関する首都圏在住者インターネット調査」について
　　「黒部市観光関連事業者アンケート調査」について
参考資料 2. 委員からの提案事項等

1. 開会

2. 委員長挨拶

3. 報告事項

（1）前回提案部分（第 1 章から第 2 章まで）の修正について

事務局　　資料 1 に基づき、前回提案部分の修正箇所について説明。

（2）アンケート調査結果

事務局　　参考資料 1 に基づき、アンケート踏査結果について説明。

委員長　　「黒部市の観光に関する首都圏在住者インターネット調査」はインターネット調査なので、インターネットにアクセスできる人しか回答できないが、昨今ではインターネット調査だからと言って結果に信頼性が低いということはなくなってきている。

（3）委員からの提案事項等

事務局　　参考資料 2 に基づき、委員からの提案事項等について説明。

4. 協議事項

（1）黒部市観光推進計画（案）について

①施策の体系（個別施策）について

事務局　　資料 1、2 に基づき、施策の体系（個別施策）について説明。

委員　　個別施策の表について、同じ矢印で表現されているが、検討中を表すものと継続中を表すものがあるかと思うので、それらを分けて表現してはどうか。また、長期まで矢印が延びているものがあるが、その期間中に何を検討するのかを明確にした方が良いのではないか。

事務局　　1 点目の検討中と継続中の矢印については、実線と点線など分けて記載したい。2 点目の検討内容については、その内容によって記載方法を変えるなど事務局内で検討したい。

委員　　矢印だけで実施しないものについて、計画に記載する必要はあるのか。また、「宇奈月スノーパークの魅力アップ」は短期で矢印が終わっているが、これは短期的に検討だけを行い、その後は何もしないという意思表示なのか。

事務局　　大きな予算が必要なものについては、実施したいという意思はあるものの、いつまでに実施すると明記できないものがある。地元関係各所の期待を煽ってもいけないが、いつか実施したいという思いもあり記載している。このような施策が計画に馴染まないということであれば、記載について検討したいと思う。宇奈月スノーパークについては、毎年約 3,000 万円の支出があり、収入は百数十万円となっている。スキー場の魅力向上を図る一方で、その在り方については検討が必要となっており、現在、第二次黒部市総合振興計画の中で審議されている。

委員　　宇奈月のスキー場は十数年前から閉鎖するか否かの議論がされている。現状の施設は老朽化が進んでおり、整備するには莫大な資金が必要になると思われる。地元の方々の意向もあると思うが、費用対効果を考えるとどこかで決断すべきではないか。

委員　　実施時期が不明確な施策については、「長期的な検討課題」のような別枠を設けて記載する方法もある。ただし、「長期」という言葉はすでに使用されているので、表現は変えなければいけない。

委員　　計画にあることを全て実施するのは難しいと思う。まずは、例えば黒部峡谷と生地など、モデル地区を 1 つ設定して観光地として作り上げ、それを手本に他の地域に展開してはどうか。観光地としての黒部を作るスピードと実際に観光客が来るスピードが合っているのかが重要だと思う。

委員長　　素案では短期の箇所に「●（実施）」か「矢印（検討）」が多く記載されており、本当に全てできるか心配である。そういう意味では特区のようなものを作るという方法もあるかもしれない。それらに関連した部分として「重点プロジェクト」という記載があるので、次第の順序とは異なるが、先に「重点プロジェクト」について議論したい。

②第 4 章「重点プロジェクト」について

事務局　　資料 1 に基づき、第 4 章「重点プロジェクト」について説明。

委員　　プロジェクト 1 の「北陸黒部の冬の味覚のおもてなし」について、魚に関してはヒラメなどすでに取り組んでいるものもあるので、短期で実施可能なのではないか。

委員　　魚や海鮮丼などは県内の他の地域にもある。黒部に来なければ食べられないようなＢ級グルメのようなものが良いのではないか。例えば黒部の名物として「水だんご」という、いろいろな料理に活用できる食材がある。また魚で出汁をとるお雑煮も黒部ならではの食である。新たに何か作ろうとすると大変なので、既存のものをどうお客様に提供するかを考えた方が良いのではないか。

委員　　アンケートの結果にもあるように、首都圏の人はまだまだ黒部のことを知らない人が多いと思う。まずは、黒部を知ってもらい来てもらうことが重要だと思う。まずお客様に来てもらい、黒部の魅力として何があるかを知っていただく必要がある。受入体制の整備も必要だが、黒部を知らない人にどう発信していくかが重要である。時代はすごいスピードで移り変わっているので、どんどん発信していかなければ遅れをとってしまう。

委員　　発信の仕方には工夫が必要である。魚津市の観光パンフレットは観光ルートが具体的に示されており魅力を感じる。糸魚川市のホームページは観光ルートのタイムテーブルまで示されている。新しい物を作るだけでなく、既存のものの発信の仕方を変えるだけでもいいと思う。

委員　　施策の中には、具体的なものもあれば、何をするかが明確になっていないものもある。例えば「異業種間の連携」という曖昧な言葉があるが、連携のどの部分を強化するのかを具体的に示す必要があるのではないか。ぶれないような明確な指針を示すべきではないか。

委員　　全体的に遊び心もあって良いのではないか。若い人や外国人に来ていただく場合、その人たちの考えを取り入れることが必要である。他の地域と差別化するためには思い切ったことをやっていくべきだと思う。若い子たちがやろうとしていることに背中を押してあげられるような体制が必要ではないか。

委員　　生地は店がどんどん減ってきている。町の人たちは観光地としてまちづくりを行っているという意識がないので、観光地化しているという狙いを示さなければ出店しようとは思わないのではないか。空き家対策として、例えば店の賃料を 1 年間無料にするなども良いと思う。

委員長　　ピークの時期の宇奈月はどこも満室だが、トロッコはピークの時期でも乗ることができる。現状、宇奈月に宿泊できなかった観光客は金沢に流れているので、それを黒部の町に持ってくることができれば賑わいに繋がっていくのではないか。

委員　　インバウンドに関して、目標にすべきなのは 2020 年のオリンピックである。少なくともそれまではいろいろなビジネスチャンスが生まれることが予想されるので、オリンピックに関連したことをもう少し具体的に記載するべきではないか。また、今の観光は団体旅行から個人旅行へと変わってきている。宇奈月の旅館へ来られるお客様に「なぜ宇奈月に来られたか」を尋ねると「口コミ」と答えられる方が多い。首都圏の宿泊施設は飽和状態にあり、政府は民泊を推進しようとしているが、外国では民泊がテロの温床となっていたケースもあり、実現は難しいと思う。しかしながら、地方の宿泊施設は空室があるのでインバウンド対策として情報発信を強化すべきなのではないか。

委員長　　プロジェクト 2 は「外国人旅行者の受け入れ環境の整備」となっている。看板の多言語化や Wi-Fi の整備は当然やらなければならないことだが、私の考えとしては、プロジェクト 2 に、環境整備だけでなくプロモーションや呼び込みに関するものもあった方が良い。プロジェクト 3 に「ターゲットを明確にした情報発信」とあるので、そのターゲットがインバウンドなのだと読めないこともない。

委員　　本来出席するはずだった課長の砂原からの言付けがあるので、これまでの議論と重なる部分もあるが、読ませていただきたい。
1 点目は、観光も産業の 1 つなので、他の産業との連携が不可欠ではないかということである。体系図には、市内観光関係団体との連携についての記載があるが、これに加えて他の産業との連携についても記載すべきではないか。2 点目は、まちなかや駅前の賑わいづくりが必要ではないかということである。黒部峡谷にはたくさんの観光バスが来ていると思うが、トロッコを降りた後すぐバスに乗って次の観光地へ行かせずに、そのお客様を黒部のまちなかへ誘導する仕組みづくりを行うべきではないか。私個人の意見としては、黒部の魅力は「水のおいしさ」だと思う。井戸水だけでなく水道水もおいしく、日本一なのではないかと思う。また、伝統料理も魅力の 1 つだと思う。先ほどの「水だんご」や魚を使ったお雑煮は、県西部の食文化とは違うので黒部らしい名産になり、外国人の方にも喜ばれるのではないかと思う。

委員　　インバウンドに関しては、やるべきことや当たり前のことはすぐにやるべきだと思う。計画に記載してある取り組みを最終的に実施するのは、民間事業者や市民だと思う。例えば、インバウンドを呼び込むのは良いのだが、実際に町の飲食店に外国人が大勢来ても、志がない飲食店は困ると思う。誰が説明に行くのか。志がある人間が説明に行くべきだと思うが、その志がある人間にどれだけ理解していただけるかが重要だと思う。また、バスで市内を観光しようとした時に、バスの乗り継ぎ時間をネットで調べても全然違っている。私も実際にバスに乗ってみたが、接続が悪く、バスで観光をしようとは思えなかった。

委員長　　今のご意見にあった実施主体の中で誰が説明するのかという点については、太文字になっている主体が中心になるということで良いか。

事務局　　現段階ではそのように考えているが、今のご指摘を受けて、その部分について、もう少し整理する必要があるかもしれない。

委員　　この後、数値目標について議論することになるが、個別施策ごとの KPI があったほうが良いのではないか。何をやれば達成なのかまで落とし込まなければ、施策は進まないと思う。例えば新しいお店をいくつ作るや魚のメニューをいくつ作るという具体的な指標が必要ではないか。

③基本目標（将来像及び数値目標）について

事務局　　資料１に基づき、基本目標（将来像及び数値目標）について説明。

委員長　　一人当たり観光消費額というのは、何の金額を指しているのか。

事務局　　県の目標値にそろえている。

委員長　　県よりも高く売る目標にはしないのか。より高いご飯、より高いお土産を目指すべきだと思う。

委員　　黒部全体のキャパシティは決まっているので、目標として、観光客数を追うのではなく消費金額を追うべきである。

委員長　　外国人観光客数の数値は政府の目標値を無視しているのではないか。

事務局　　FIT の増加が期待されている中で、今後の外国人団体客数が伸び続けるのかということは読みづらいところがある。

④第５章「推進体制」について

事務局　　資料１に基づき、第５章「推進体制」について説明。

委員　　先ほどの数値目標の中の着地型観光商品の利用者数の数値について、現状値と目標値が同じなのはなぜか。

事務局　　現状値は新幹線効果でこれまでより観光客が増加したと捉えているので、それを維持していきたいという考えである。

委員　　着地型観光商品は増やしていくというのであれば、利用者数の目標値をもっと高く設定してはどうか。

委員長　　現状値と同じ数値を目標値とすることが良いのかどうかは検討する必要があると思う。

委員　　着地型観光においては、観光客の「足」となる交通手段が大事である。観光地間を繋ぐ交通があると商品化しやすく、エージェントなどにも説明がしやすい。観光と公共交通はもっと連携を強化すべきである。

5. その他

（1）今後のスケジュールについて

事務局　　資料３に基づき、今後のスケジュールについて説明。

6. 閉会

以上